

## 第4章

# 誰もが元気に楽しく住みつづけたいくなるまちづくり

---

第1節 道路・交通……………110

第2節 市街地・住宅……………118

第3節 産業・観光振興……………126

## 現状と課題

- 幹線道路はまちの骨格を形成するとともに、町内外を結ぶ連携と交流の軸として重要であり、スムーズな人・物の移動に欠かせない役割を果たしています。
- 都市計画道路の整備率は約50%であり、広域的な幹線道路および土地区画整理事業が施行された区域を除く旧市街地等での整備が遅れています。
- 本町には、主要幹線道路として、東名阪自動車道、国道1号、西尾張中央道があり、国道1号は改良が進められています。
- 一方、町内の連携軸として期待される都市計画道路七宝蟹江線（東郊線）と町道今須成線の整備には、地元との合意形成や事業費の確保などの問題があります。
- さらに、町道今須成線はJR関西本線と、町道東郊線はJR関西本線および近鉄名古屋線との立体交差化を図る必要があるため、その整備は中長期的な課題となっています。
- 歩行者の安全を確保するため、狭あい道路の拡幅や歩道整備を進める必要があります。しかし、用地取得が課題となっており、特に旧市街地は極めて困難です。地元の総意で道路整備の気運を高めることが必要です。
- 限られた財源のなかでは、用地買収などの事業費確保が難しくなっており、今ある道路の有効活用が必要です。
- 県に対して近鉄蟹江駅前の県道歩道整備を要請するとともに、歩行者の安心・安全を守るために交通安全施設を整えることが課題です。

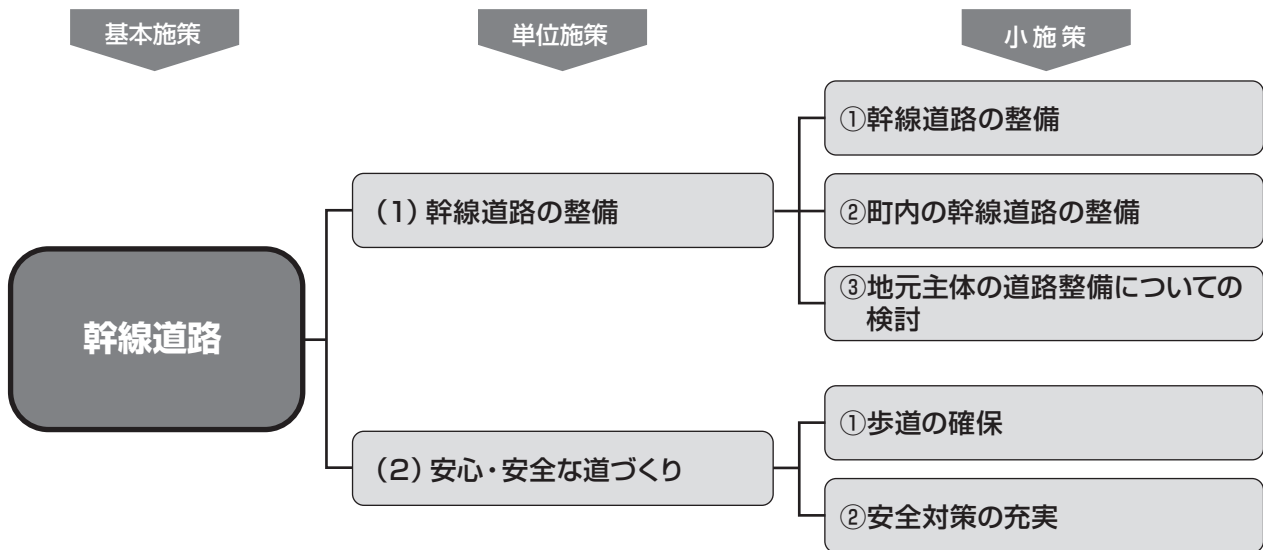
## 施策がめざす蟹江町の将来の姿

- 幹線道路の交通の流れがスムーズになり、歩行者にも安全な道路となっています。
- 地区の道路や安全な歩行環境確保について住民や土地所有者が積極的に考えています。

目標値 

基本成果指標	現状値	目標値	
	2008(平成20)年度	2015(平成27)年度	2020(平成32)年度
幹線道路などの整備の満足度 【蟹江町住民意識調査(H20.10)】	24.5%	—	29.5%

## 施策の体系



## 施策内容

### (1) 幹線道路の整備

#### ① 幹線道路の整備

広域幹線道路の安全確保やスムーズな交通流動の維持に向けた整備について、関係機関に要請します。

#### ② 町内の幹線道路の整備

都市計画道路弥富名古屋線および新本町線の整備と維持を進めるとともに、都市計画道路七宝蟹江線（東郊線）と町道今須成線の整備に向けて、地元の合意形成に努め、用地取得を進めます。

#### ③ 地元主体の道路整備についての検討

町民や土地所有者による地元の道路整備のための検討を支援し、地区における合意形成が図られたところから、その事業化を検討します。

### (2) 安心・安全な道づくり

#### ① 歩道の確保

歩行者の安全を確保するため、歩道の整備を進めます。特に、歩行者が多い近鉄蟹江駅前の歩道の確保を図ります。

#### ② 安全対策の充実

歩行者の安全性を高めるため、歩道の維持管理や分かりやすい交通規制の実施、交通安全施設の充実に関係団体と協力し進めます。

## 主要事業

事業名	事業概要
街路整備事業	都市計画道路七宝蟹江線の整備に向けて事業化を検討する。
道路新設改良事業	町道今須成線歩道の整備に向けて事業化を検討する。
今須成線高架橋整備事業	JR関西本線高架橋の整備に向けて事業化を検討する。

【土木農政課】【まちづくり推進課】【安心安全課】

## 現状と課題

- 生活道路は地域と幹線道路をつなぐ毛細血管のような役割を持つ町道などです。住民生活に身近であり、快適安全に歩行することが求められます。
- 本町では、土地区画整理事業や土地改良事業などにより生活道路を整備してきました。しかし、旧市街地を中心として4m未満の狭あい道路が目立っています。
- 生活道路が歩行者、とりわけ高齢者や子どもにもやさしい道路となっているかなど、安全性の実態について町内全域を対象に調査する必要があります。
- 車の往来が多い箇所については、用地の確保と歩道の確保が課題です。特に旧市街地については、道路用地の確保などの問題があり、安全な道路のあり方について、交通安全意識を高めることを含めて対処していくことが大きな課題です。
- 道路の維持管理をシルバー人材センターに委託していますが、簡易補修や除草作業に時間を要しており点検も十分ではないのが現状です。

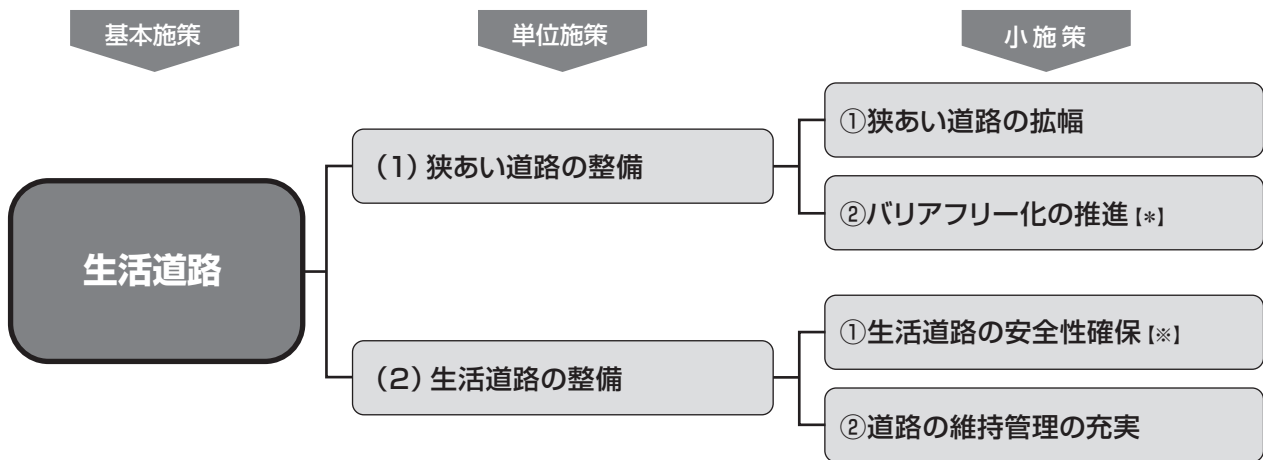
## 施策がめざす蟹江町の将来の姿

- 狭あい道路について改善のための対策が進んでいます。
- 地区住民が道路の安全性を確認して、交通安全に留意した対策を検討しています。

目標値 

基本成果指標	現状値	目標値	
	2008(平成20)年度	2015(平成27)年度	2020(平成32)年度
生活道路等の整備の満足度 【蟹江町住民意識調査(H20.10)】	25.3%	—	30.3%

## 施策の体系



※：【重点施策】

\*：【関連施策】1-3-2 障がい者（児）福祉<P56>

## 施策内容

### (1) 狭あい道路の整備

#### ① 狭あい道路の拡幅

良好な生活環境を形成するとともに、災害時に備えるため、狭あい道路の幅員を4m以上確保することに努めます。また、セットバックした土地については、所有者の適切な管理を促します。

#### ② バリアフリー\*化の推進

歩道の整備・確保を進めるとともに、誰もが歩行しやすいようにバリアフリー化を推進します。

### (2) 生活道路の整備

#### ① 生活道路の安全性確保

地域が中心となって生活道路の安全性について調査・確認するとともに、町民への危険箇所の周知や沿道の見通し確保などの対策を行います。

……※重点施策・☆協働の取り組み

#### ② 道路の維持管理の充実

地域や団体と連携して、道路パトロールや清掃、草刈りなど、道路の維持管理を充実します。

## 主要事業

事業名	事業概要
ふる郷ふれあい事業 (アダプト制度)	町内公共施設（道路、河川、公園等）の美化清掃について町民が主体（里親）となってボランティアで管理する。

【土木農政課】【まちづくり推進課】

## 現状と課題

- 駐輪場は、近鉄蟹江駅、近鉄富吉駅、JR蟹江駅に合わせて7か所の町営駐輪場を設置し、3,760台の収容能力があります。しかし、近鉄蟹江駅前の駐輪場は飽和状態にあり、放置自転車の増加や駐輪マナーの問題が指摘されています。
- 「蟹江町自転車等の放置防止に関する条例」により放置禁止区域を設けているとともに、未利用自転車の点検・撤去を行っていますが、路上での駐輪が絶えず、継続的な対策が課題です。
- 駐輪のマナーを高め、駐輪場を利用しやすくするために、利用者への啓発や有料化を含めた対策を検討する必要があります。
- 自動車の違法駐車は、安全面や緊急車両の通行にも支障となります。道路交通法の改正による規制強化によって抑制されていますが、依然として路上駐車が目につく場合があり、ドライバーへのさらなる啓発が大きな課題です。

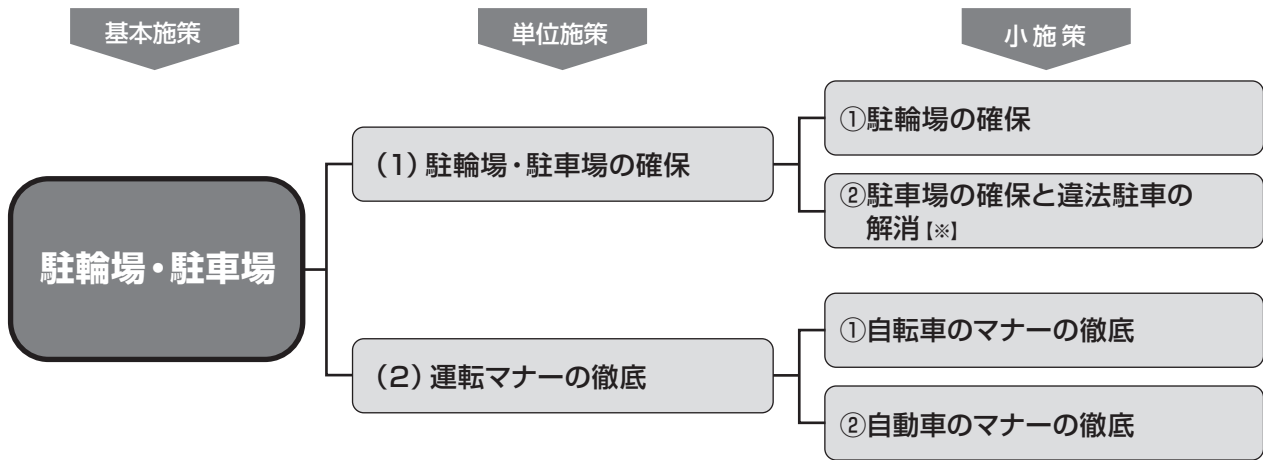
## 施策がめざす蟹江町の将来の姿

- 路上での違法駐車・駐輪が減り、歩行者が快適に通行しています。
- 正しい駐輪場の利用や自転車のマナーの向上により駅周辺が安全になっています。

目標値 

基本成果指標	現状値	目標値	
	2009(平成21)年度	2015(平成27)年度	2020(平成32)年度
放置自転車撤去台数 【放置自転車実態調査(H22.10)】	574台/年	—	放置台数の減少

## 施策の体系



※：【重点施策】

## 施策内容

### (1) 駐輪場・駐車場の確保

#### ① 駐輪場の確保

近鉄蟹江駅の駐輪場について、地元と調整して整備・確保するとともに、徒歩範囲内での自転車利用の抑制についても呼びかけます。

#### ② 駐車場の確保と違法駐車 of 解消

駅周辺における駐車場の確保について土地所有者に要請するとともに、自動車利用の抑制を呼びかけます。また、地域とともに、駅周辺などにおける違法駐車 of 解消を図ります。

……※重点施策・☆協働の取り組み

### (2) 運転マナーの徹底

#### ① 自転車のマナーの徹底

駐輪場利用のマナーや放置自転車をなくすための指導を行うとともに、駅周辺を含めた自転車通行マナーの向上を強力に呼びかけます。

#### ② 自動車のマナーの徹底

自動車の安全運転や駐車 of マナー of 徹底を啓発します。

## 主要事業

事業名	事業概要
自転車駐輪場整理業務	駅周辺に設置 of 駐輪場に係る自転車の整理を行う。

【土木農政課】【安心安全課】

## 現状と課題

- 公共交通は、名古屋市などの諸都市との連携を確保して本町が発展し続けるために重要です。また、高齢社会に向けて、町内や近隣地域への貴重な移動手段としてバスなどの交通は重要な役割が期待されます。
- 近鉄蟹江駅は、急行列車が停車するようになり利便性が高まりました。しかし、駅前ロータリーが狭いことや、地上駅であることから、橋上駅化と駅前広場の整備が長年の課題となっています。また、JR蟹江駅についても利用者の増加が見込まれ、橋上駅化と駅前広場の整備が課題です。
- 近鉄富吉駅は平成22年度までにエレベーターが設置されました。
- 町内の移動手段としてお散歩バスを運行していますが、町民の移動手段の確保や環境負荷の低減などの視点から、公共交通体系として調整を図ることが課題です。
- また、お散歩バスは車いすでの利用ができないため、移送サービスを利用することになるのが実情となっており、今後の方策を検討することが必要です。

## 施策がめざす蟹江町の将来の姿

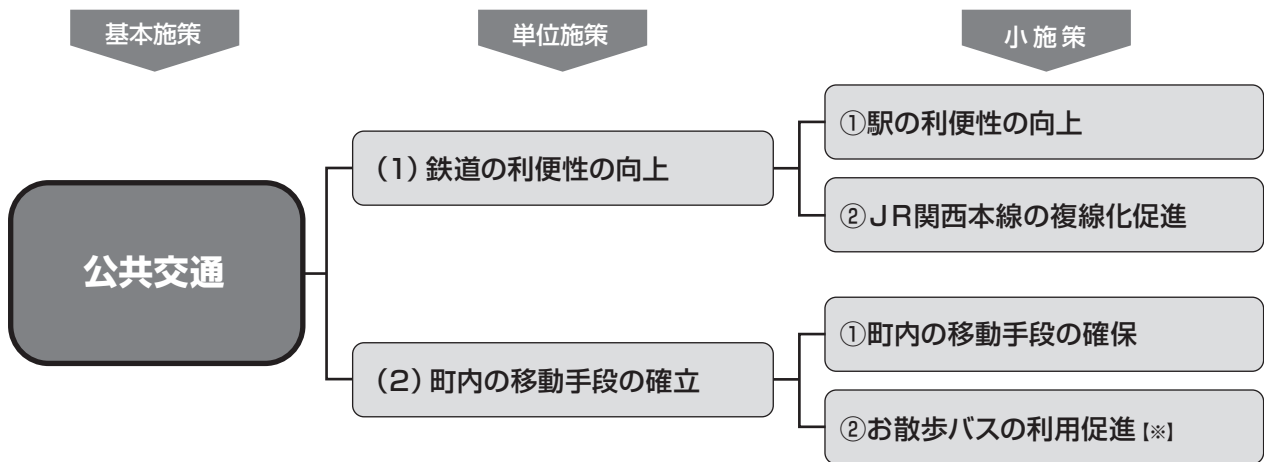
- 町民が安全・快適に鉄道を利用しています。
- お散歩バスなどの移動手段が確保されて、町民が便利に過ごしています。

目標値 

基本成果指標	現状値	目標値	
	2008(平成20)年度	2015(平成27)年度	2020(平成32)年度
公共交通機関の満足度 【蟹江町住民意識調査(H20.10)】	40.5%	—	45.5%
お散歩バスの年間利用者数	40,433人	—	利用率の向上



## 施策の体系



※：【重点施策】

## 施策内容

### (1) 鉄道の利便性の向上

#### ① 駅の利便性の向上

J R蟹江駅北周辺における駅前広場の整備を進めるとともに、近鉄蟹江駅の駅前広場の整備やこれらの駅についての橋上化の可能性について構想します。

#### ② JR関西本線の複線化促進

J R関西本線の複線化と利便性の向上について要請します。

### (2) 町内の移動手段の確立

#### ① 町内の移動手段の確保

町内の移動手段の確保のため、総合的で効率的な対策を検討します。

#### ② お散歩バスの利用促進

お散歩バスが便利で安心して利用できる移動手段となるよう運行のしくみを検討します。

……※重点施策・☆協働の取り組み

## 主要事業

事業名	事業概要
駅前広場整備事業	J R蟹江駅北駅前広場の整備を進める。
お散歩バス運行事業	誰でも利用できるバスを町内2ルートで巡回運行する。

【土木農政課】【まちづくり推進課】【ふるさと振興課】

## 現状と課題

- 本町は名古屋駅から時間距離が約10分と至便であること等による高い住宅需要を背景として、旧市街地近接に土地区画整理事業による良好な市街地環境の形成を図ってきました。現在は、蟹江今駅北特定土地区画整理事業を進めています。
- また、鉄道駅周辺は町民が集まるとともに、町外からの来訪者のための本町の顔として重要です。
- しかし、大型店舗の郊外への出店に伴い、近鉄蟹江駅前においても空き店舗や空き家が増えてきています。高齢者をはじめ、住民にとって身近で便利な市街地形成を図っていくことが課題です。
- 既に宅地化が進んでいる近鉄富吉駅南（国道1号南）、近鉄蟹江駅南、JR蟹江駅南の市街化調整区域については、市街地としての整備が難しくなっています。
- これらの地域や旧市街地を中心として、居住環境を向上させるための工場と住宅の混在の解消や公園の確保、歩行者の安全を確保するための狭あい道路拡幅の検討などが課題です。
- 市街地環境整備のためには、秩序ある宅地開発を誘導することや、地元の意識を高めて面的な整備を導入すること、環境整備や安全確保のために地域での対応を促すことが課題です。

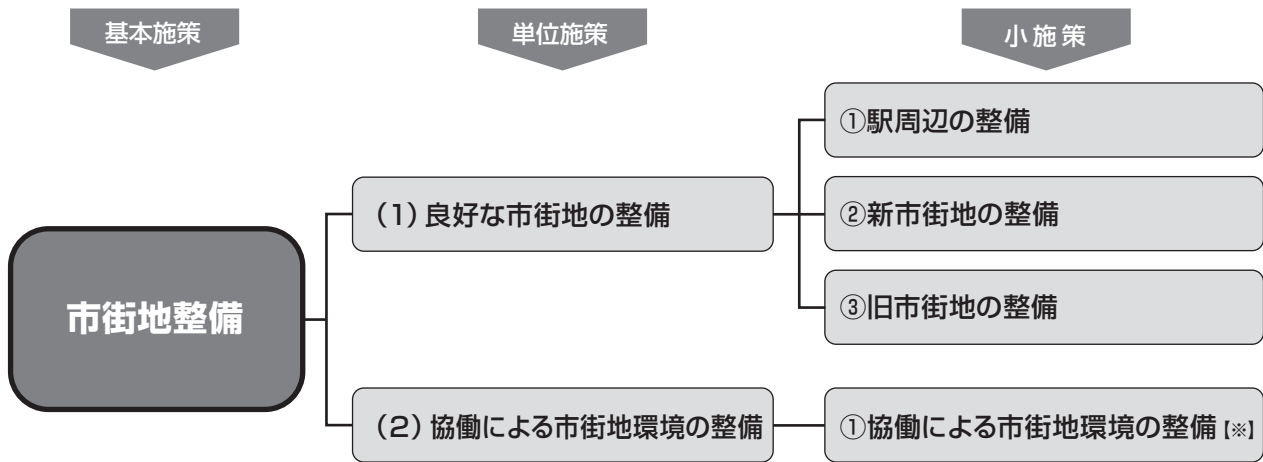
## 施策がめざす蟹江町の将来の姿

- 駅周辺において商業や生活サービス機能が活性化するとともに、市街地環境が向上しています。
- 旧市街地などにおいて、道路の安全や快適な環境づくりのために、地域が創意工夫して取り組んでいます。

目標値 

基本成果指標	現状値	目標値	
	2008(平成20)年度	2015(平成27)年度	2020(平成32)年度
計画的な市街地の整備に関する満足度 【蟹江町住民意識調査(H20.10)】	17.0%	—	22.0%

## 施策の体系



※：【重点施策】

## 施策内容

### (1) 良好な市街地の整備

#### ① 駅周辺の整備

近鉄蟹江駅などの駅周辺において商業の活性化を図るなど生活に便利な拠点を形成します。近鉄富吉駅南(国道1号南)、近鉄蟹江駅南、JR蟹江駅南の市街化調整区域において基盤整備を行うことをめざして、地元とともに検討します。あわせて、国道1号沿道がにぎわいを創出する場となるよう整備を検討します。

#### ② 新市街地の整備

JR蟹江駅北において土地区画整理事業を施行し、駅前広場整備とともに市街地環境の整備を図ります。

また良好な住環境の形成や地域活性化を図るために未利用地の解消に努めます。

#### ③ 旧市街地の整備

基盤整備の導入に向けて、道路拡幅や公園の確保などを含めて、地元が主体となったまちづくりの検討を促します。

### (2) 協働による市街地環境の整備

#### ① 協働による市街地環境の整備

基盤整備が困難な地域では、地元が主体となって生活道路や居住環境の安全性、快適性を高める取り組みを促進します。

……※重点施策・☆協働の取り組み

## 主要事業

事業名	事業概要
蟹江今駅北特定土地区画整理事業	蟹江今駅北特定土地区画整理事業区域の市街地環境の整備を図る。

【まちづくり推進課】

## 現状と課題

- 本町は大都市圏の住宅需要を受け入れてきましたが、成熟社会を迎え、定住の場にふさわしい住環境の向上を図る必要があります。
- 蟹江町住民意識調査の結果から町民の定住意識は必ずしも高くなっておらず、住環境への要求が多様化していることへの対応や、より良好な住環境整備のための総合的な対策が必要です。
- 「蟹江町宅地開発等に関する指導要綱」により指導を行っていますが、良好な住環境の形成に向けて、より強力に指導することが課題です。
- 安全で快適な生活を送るため、町民のモラル向上や町民による環境美化の促進、ごみ集積場やエコステーション（常設資源ごみ置き場）における分別収集や利用のマナー徹底を促すことが課題です。
- 町名地番設定事業などの合理的な住所表示の変更が必要であり、町内会の自主的な判断を促す必要があります。

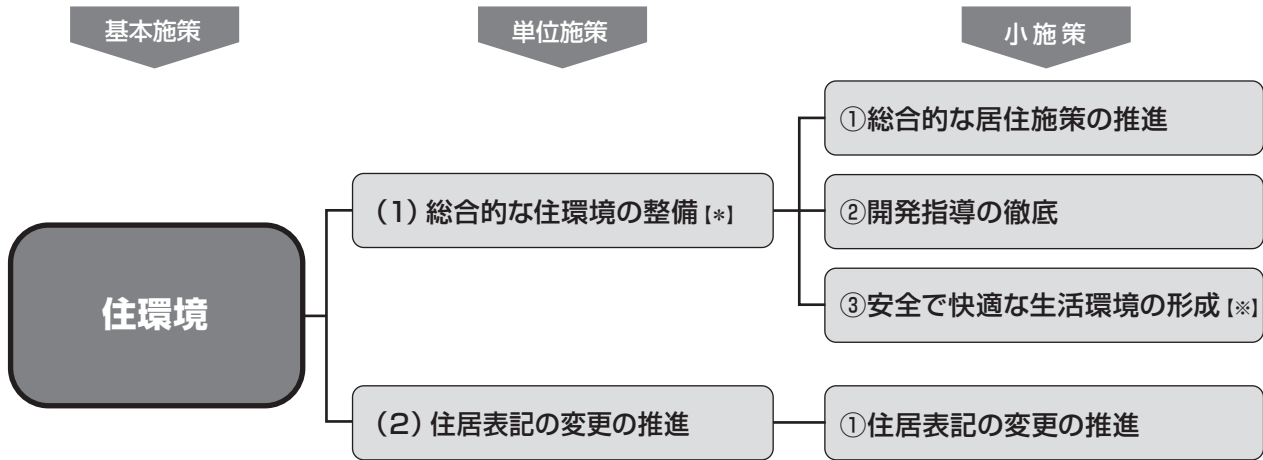
## 施策がめざす蟹江町の将来の姿

- 快適に住み続けることができる住環境が総合的に整ってきています。
- 居住地の安全や美化が進み、快適なコミュニティが形成されています。

目標値 

基本成果指標	現状値	目標値	
	2008(平成20)年度	2015(平成27)年度	2020(平成32)年度
住みよいという割合 【蟹江町住民意識調査(H20.10)】	71.2%	—	76.2%

## 施策の体系



※：【重点施策】

\*：【関連施策】 3-3-2 防災・危機管理 (2) ①住宅耐震化等の促進<P103>

## 施策内容

### (1) 総合的な住環境の整備

#### ① 総合的な居住施策の推進

本町の個性を活かして、良好な住環境整備を図るために、住生活基本法を踏まえて、高齢社会を視野に入れた総合的な環境整備を図ります。

#### ② 開発指導の徹底

「蟹江町宅地開発等に関する指導要綱」の内容の見直しを図りながら、条例制定についても検討します。

#### ③ 安全で快適な生活環境の形成

環境美化指導員の役割を明らかにするとともに、地域において町民のモラル向上および環境美化意識の啓発に努めます。また、ごみ集積場と常

設資源ごみ置き場の確保や、ごみ分別指導の徹底を地域で促します。……※重点施策

### (2) 住居表記の変更の推進

#### ① 住居表記の変更の推進

区画整理事業などの実施による町名地番変更のほか、住所の表記を合理的に改めるため、町界町名の設定について、町内会の自主的な判断を尊重し町内会とともに進めます。

## 主要事業

事業名	事業概要
資源ごみ集積場整備に伴う補助	常設資源ごみ置き場(エコステーション)を整備する自治会・町内会に対して、整備のための補助をする。
一般ごみ収容施設設置事業補助金	ごみ集積場を整備する自治会・町内会に対して、整備のための補助をする。

【まちづくり推進課】【環境課】【政策推進課】

## 現状と課題

- 公園・緑地は、住環境の快適性を向上させるとともに、町民に憩いの場を提供したり、防災性を高める役割を担います。
- 本町では、これまで日光川ウォーターパークをはじめ都市公園16カ所の整備と、蟹江川水辺スポットなどの整備を進めてきました。この結果、平成21年現在本町の都市公園面積は約14ha、1人当たり3.8㎡となりましたが、今後でも整備が必要です。
- とりわけ、旧市街地においては、まとまった公園敷地の確保が難しくなっています。
- 児童公園は借地公園が多いため、地権者の意向に応じて返却することが必要になる場合も予想されます。
- 平成15年から供用を始めた日光川ウォーターパークは利用者が増えていますが、中央エリア以外の整備が課題です。
- 蟹江今駅北特定土地区画整理事業（JR蟹江駅北）区域内に設置予定の公園や、新規に公園を整備する場合は、地元が愛着を持つことができる公園づくりを進めることが必要です。同様に、既存の公園についても、町民が管理に参加することが求められています。
- さらに、潤いのある環境形成のために緑化の推進は重要ですが、落ち葉の清掃や消毒管理などの維持管理費が必要となります。
- 緑化の計画は、良好な環境をつくるために、町民が主体となった住宅地を含めた緑の管理などの緑化活動の推進が課題です。

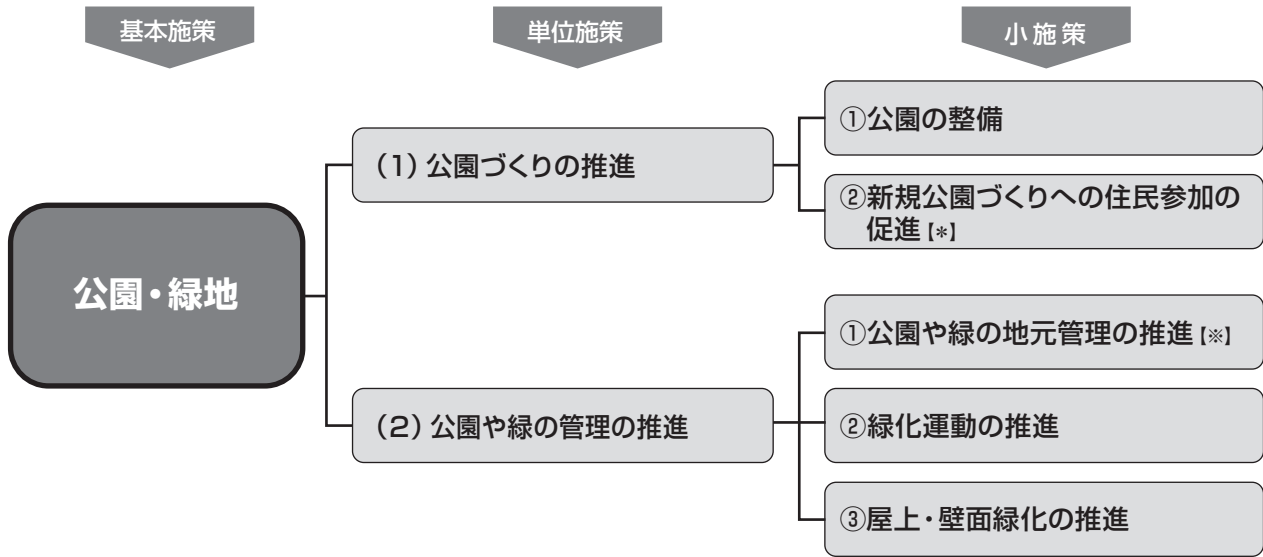
## 施策がめざす蟹江町の将来の姿

- 町民が身近な公園を大切に利用し、地元などにより適切に日常的な管理を行っています。
- 緑が大事に育てられ、落葉などの清掃や管理を町民と町が連携して進めています。

目標値 

基本成果指標	現状値	目標値	
	2008(平成20)年度	2015(平成27)年度	2020(平成32)年度
公園・緑地に関する満足度 【蟹江町住民意識調査(H20.10)】	39.8%	—	44.8%
町民1人当たりの都市公園面積 【緑の基本計画(H22)】	3.8㎡	6.7㎡	7.8㎡

## 施策の体系



※：【重点施策】

\*：【関連施策】 5-1-1 協働の推進 (1) ②計画策定時の住民参加機会の拡大<P139>

## 施策内容

### (1)公園づくりの推進

#### ①公園の整備

旧市街地などにおいて、借地方式等による公園用地の確保を行います。また、既存の公園において適切に遊具を改修するなど、安全に利用できる環境整備を図ります。

#### ②新規公園づくりへの住民参加の促進

蟹江今駅北特定土地区画整理事業区域（JR蟹江駅北）などにおいて、新規に公園を整備する場合は、計画段階から住民参加の公園づくりを進めます。

### (2)公園や緑の管理の推進

#### ①公園や緑の地元管理の推進

新規の公園はもちろん、既存の公園や蟹江川水辺スポットなども町民・地元による管理の推進を図ります。 ……※重点施策・☆協働の取り組み

#### ②緑化運動の推進

街路樹などの落ち葉の清掃や消毒などの管理を地元とともに行う方策の導入を図ります。

#### ③屋上・壁面緑化の推進

環境にやさしい住まいづくりや、住宅地の景観形成のために、公共施設や事業所などの屋上や壁面の緑化推進を啓発するとともに支援制度を検討します。

## 主要事業

事業名	事業概要
公園整備事業	はつらつ公園 2,800㎡（蟹江今駅北特定土地区画整理地区内）の整備を行う。
公園整備事業	なかよし公園 2,600㎡（蟹江今駅北特定土地区画整理地区内）の整備を行う。

【まちづくり推進課】

## 現状と課題

- 心に潤いやゆとりを与えてくれる美しい景観を形成することや、水郷の自然景観を保全することは、居住地としての魅力を高めることとなり、来訪者にも良い印象を与えます。
- 本町は、街並み、川、水田といった特色ある景観を有していますが、現状では市街地において基盤整備の遅れや用途の混在、空き家・空き地などの発生に伴い街並み景観が崩れ、美観も失われています。
- 都市化の進展等により、本町にとって大きな魅力である水郷景観が徐々に失われつつあります。佐屋川創郷公園は整備されているものの、佐屋川をはじめとする水郷景観について、現状を把握し計画的に保全することが課題です。
- 観光協会が実施している温泉通りなど主要道路へのイルミネーションの設置など、観光客の目を楽しませるだけでなく、やすらぎと夢を提供する新たな景観形成の取り組みを広げること求められます。

## 施策がめざす蟹江町の将来の姿

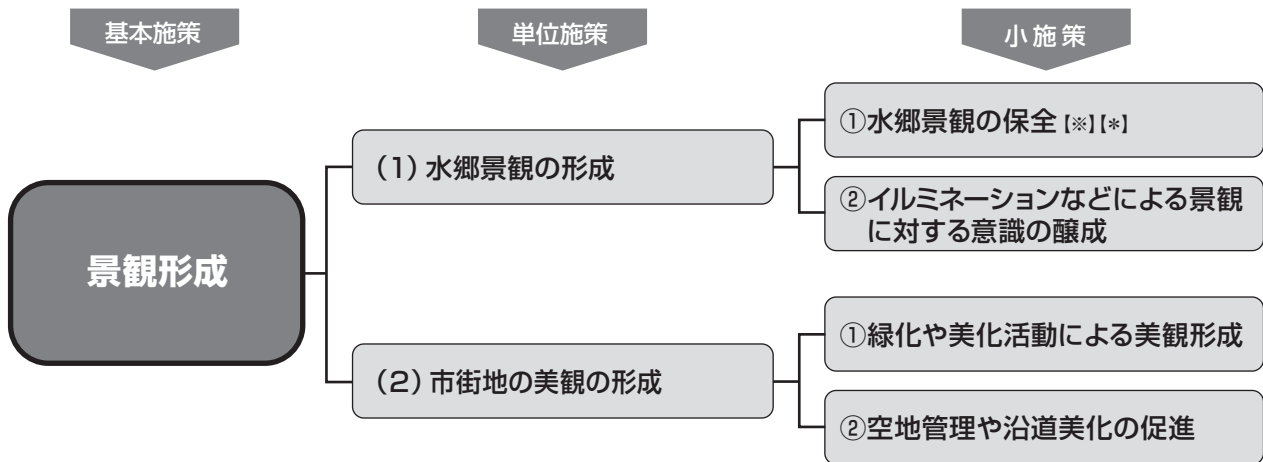
- 緑化の推進や旧市街地での居住促進、美化活動などにより、市街地が美しくなっています。
- 水郷景観や温泉地の雰囲気は保全されて、観光客も町の景色を楽しんでいます。

目標値 

基本成果指標	現状値	目標値	
	2008(平成20)年度	2015(平成27)年度	2020(平成32)年度
文化財や古い街並みの保存に関する満足度 【蟹江町住民意識調査(H20.10)】	12.3%	—	17.3%
まちの美化に関する満足度 【蟹江町住民意識調査(H20.10)】	40.7%	—	45.7%



## 施策の体系



※：【重点施策】

\*：【関連施策】3-2-1 自然との共生 (1) 水辺環境の保全・創出<P91>

## 施策内容

### (1) 水郷景観の形成

#### ① 水郷景観の保全

水郷景観や治水の面から、佐屋川の堤の保全について所有者に啓発します。また、佐屋川、蟹江川などの貴重な資源により育まれてきた個性豊かな水郷景観を継承します。……※重点施策

#### ② イルミネーションなどによる景観に対する意識の醸成

イルミネーションの設置については、町民がやすらげるような環境づくりに寄与するだけではなく、地域のイメージアップや活性化をもたらすことから、町民の参画も検討していきます。また、省エネに配慮します。

### (2) 市街地の美観の形成

#### ① 緑化や美化活動による美観形成

公共施設や事業所、住宅の緑化を推進するとともに、地域の清掃活動などを促進し路上などのごみをなくして、市街地の美化を推進します。

#### ② 空地管理や沿道美化の促進

空地の適切な管理について所有者に指導するとともに、道路沿いの植栽化など緑化への活用を促します。

## 主要事業

事業名	事業概要
町内一斉美化清掃	年2回、地域住民、町議会、事業者および行政が一体となり、家庭周辺や道路側溝などの清掃を実施する。

【土木農政課】【ふるさと振興課】【まちづくり推進課】【環境課】

現状と課題

- 本町は、都市近郊地域に位置して急速に都市化が進んだことにより、平成17年現在、農家数487軒のうち、兼業農家が大半になっています。また、稲作農家の大半はオペレーターに委託しています。
- 農地の面積は平成12年には254haでしたが、平成17年には239haに減少しています。優良農地の保全に努めてきましたが、分家のための転用なども進んできました。
- 農業のなかでは、施設園芸による花き栽培などの都市近郊型農業の展開や、イチジクなど古くからの特産品の栽培により、一部では付加価値の高い経営が行われています。
- しかし、農業生産のみでは生活が成り立たなくなっており、付加価値の高い農業生産と、加工や販売と連携した振興を図る必要があります。
- また、後継者の育成が難しくなっており、遊休農地対策と合わせて農地を管理するしくみづくりが課題です。
- 我が国の課題として、食糧自給率の向上や、食の安全のための対策が必要であり、安全な農産物の生産を進めることも必要です。
- さらに、食育推進計画に基づき、地産地消\*、特産品開発などを進めることや、観光・交流拠点を整備して販売とPRを連動させて推進することが課題です。
- 農業基盤整備は進んでいますが、農業用水と町幹線排水路へ下水が流入しており、調整が必要です。
- 排水機を農業用に整備してきましたが、今後、土地改良区による管理が難しくなる可能性があり、防災対策と都市下水対策のための排水機整備のあり方を見直すことが課題です。

施策がめざす蟹江町の将来の姿

- 優良な農地の耕作が続けられ、後継者や新たな農業経営が育ちつつあります。
- 白イチジクなどの特産物の生産と加工・販売が盛んになり、かにえブランドが確立しています。

目標値 

基本成果指標	現状値	目標値	
	2009(平成21)年度	2015(平成27)年度	2020(平成32)年度
農業振興、農地の保全・活用の満足度 【蟹江町住民意識調査(H20.10)】	9.9%	—	14.9%

## 施策の体系



※：【重点施策】  
 \* 1：【関連施策】 3-2-3 下水道・生活雑排水処理 (2) ②用排水路の維持管理<P95>  
 \* 2：【関連施策】 2-1-1 義務教育 (1) ⑤食育の推進<P71>  
 \* 3：【関連施策】 5-1-2 地域組織・住民活動支援 (2) 住民活動支援の充実<P141>

## 施策内容

### (1) 優良農地の保全と基盤整備の推進

#### ① 優良農地の保全

市街化調整区域における優良農地の保全と、土地の集積を図ります。

#### ② 農地管理の徹底

不在地主や遊休農地の発生を抑制するために、農地所有者に土地の有効活用を含めた農地管理の徹底を促します。

#### ③ 用排水分離の推進

農業用水への下水の混入を防ぐために、下水道整備事業とともに、用排水分離を図ります。

#### ④ 排水機の整備

……※重点施策

老朽化した排水機の改修を図るとともに、農業用排水と都市下水用排水の適正な分担を図る排水機の整備を進めます

……※重点施策

### (2) 付加価値の高い農業の振興

#### ① 環境に配慮した安全な食の生産

環境に配慮した農業生産を振興するとともに、地産地消と食育の推進を図ります。

#### ② かにえブランドの確立

白イチジクなどの特産品の生産を拡大して、加工・販売を進め、商品ブランドづくりを進めます。さらに、商品開発と連携して、本町の水郷の里などの地域イメージの向上も図り、地域ブランドを確立します。また、農業体験の機会をつくり、来訪者の確保や本町のPRを図ります。

#### ③ 「まちなか交流センター」の活用

ふれあいと交流の場として整備された「まちなか交流センター」の運営や複合施設仮称「かわの駅」構想の検討のなかで、農業者や商工会、住民グループなどと連携し、特産品のPRを行うことにより特産品の販売・購入を促進します。また、地産地消のより一層の普及促進を図ります。

……☆協働の取り組み

#### ④ 後継者の育成や農業への参入の誘導

付加価値の高い農業生産の振興などにより、後継者の確保に努めるとともに、企業的農業経営や、企業の農業参入を促します。

町民菜園の活用により農業に親しむ環境づくりを推進します。

## 主要事業

事業名	事業概要
農業経営基盤強化促進事業	農地の合理化を促進するため、地域で農業経営の改善や農作業受委託等を推進する。
農地・水・環境保全向上活動事業	地域住民や自治会が農家と一緒にあって農地の保全に参加し自然景観を守る活動を支援する。

## 現状と課題

- 工業は中部圏のものづくりの産業・技術を支えるとともに、町内における雇用を創出して、町としての自立性を高めるために重要な産業です。
- 本町の工業は、平成20年現在、事業所数109、従業員数2,586人、工業出荷額等6,558,923万円で、事業所数は概ね2年前の平成18年から横ばいで推移しています。
- 平成20年秋ごろからの世界的な景気の悪化と、名古屋圏の基幹産業である自動車産業の大きな落ち込みに伴い、多くの業種が影響を受けて経営を取り巻く環境が厳しくなっています。
- 町内企業を町内外にPRするとともに、経営基盤を強化するために、他市町村や金融機関の動向を踏まえながら、適切で効果的な支援体制を整えることが課題です。
- 商工会との連携を密にし、商工会が独自事業を積極的に展開し、住民ニーズに柔軟に対応できるよう支援することが課題です。
- 土地利用の面では、本町の地価は相対的に高く、都市化に伴い住宅・マンション等が増加するなかで、付加価値の高い製造業などの工業立地の誘導や工場跡地の活用のあり方を検討することが必要です。

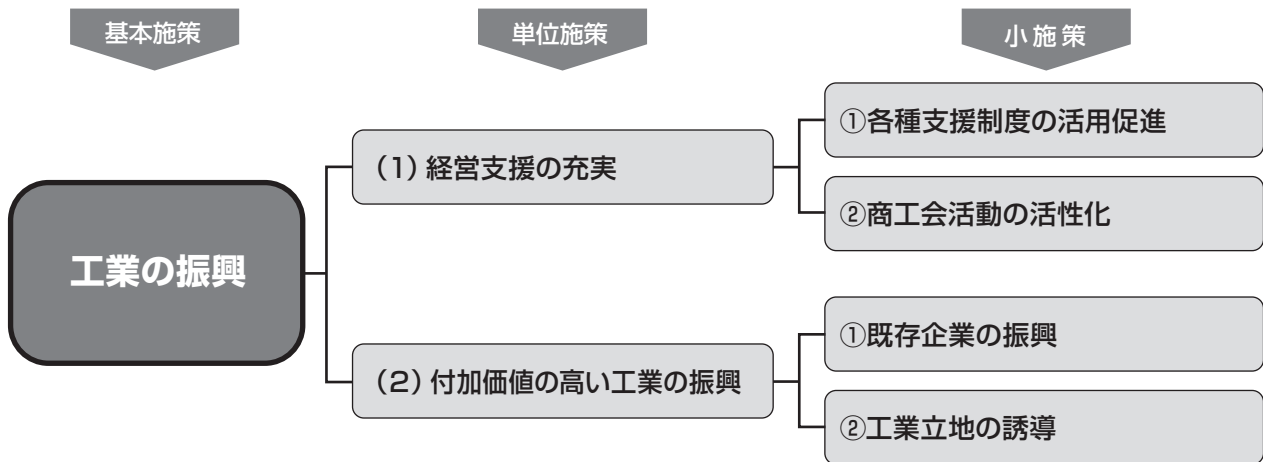
## 施策がめざす蟹江町の将来の姿

- 安定した工業経営が図られ、雇用機会も確保されています。
- 独自の技術開発や付加価値の高い工業生産が行われ、地域経済の活力を維持しています。

目標値 

基本成果指標	現状値	目標値	
	2008(平成20)年度	2015(平成27)年度	2020(平成32)年度
事業所数 【平成20年工業統計調査より】	109事業所	—	103事業所

## 施策の体系



## 施策内容

### (1) 経営支援の充実

#### ① 各種支援制度の活用促進

中小企業経営を支援するために、信用保証制度のPRと活用促進を図るとともに、町の補助制度の見直しを図ります。

#### ② 商工会活動の活性化

商工会の自立性を高めるために、異業種間の情報交流を促進することにより、組織体制並びに経営指導力の強化や独自事業の展開を促します。

### (2) 付加価値の高い工業の振興

#### ① 既存企業の振興

既存企業の存続・発展のため、商工会と連携を図りながら、事務の効率化や生産設備の更新を促進するとともに、経営診断や各種支援制度の充実を図ります。

#### ② 工業立地の誘導

付加価値が高い製造業等の立地や、東名阪自動車道蟹江ICを活用する物流関連企業の立地誘導を図ります。

## 主要事業

事業名	事業概要
商工業振興資金融資補助金	愛知県信用保証協会の商工業振興資金のうち小規模企業資金の融資を受けた事業者に対し、補助を行う。
日本政策金融公庫融資補助金	株式会社日本政策金融公庫の小規模事業者経営改善資金融資を受け、かつ蟹江町商工会長から報告を受けた事業者に対し、補助を行う。

【ふるさと振興課】

## 現状と課題

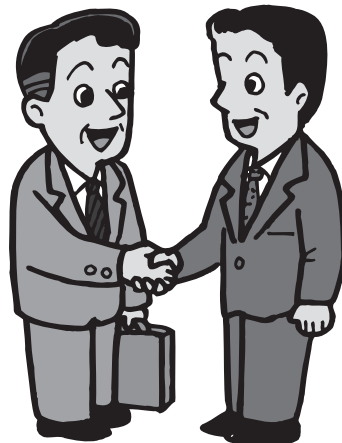
- 商業・サービス業は、高齢社会に向けて日常生活を支える役割が期待されるとともに、豊かな消費生活を実現し、雇用を創出する役割を担います。
- 本町の商業は、平成19年現在、商店数385、従業員数2,829人で、徐々に落ち込んでいます。
- 大型店の進出や消費者ニーズの多様化、ライフスタイル\*の変化により、特に中小企業は厳しい経営状況下であり、本町の中心部はかつてのにぎわいが失われつつあります。
- 消費者ニーズを的確に対応した、個性に富んだ商店の育成や、商工会などと連携した企業支援が求められています。

## 施策がめざす蟹江町の将来の姿

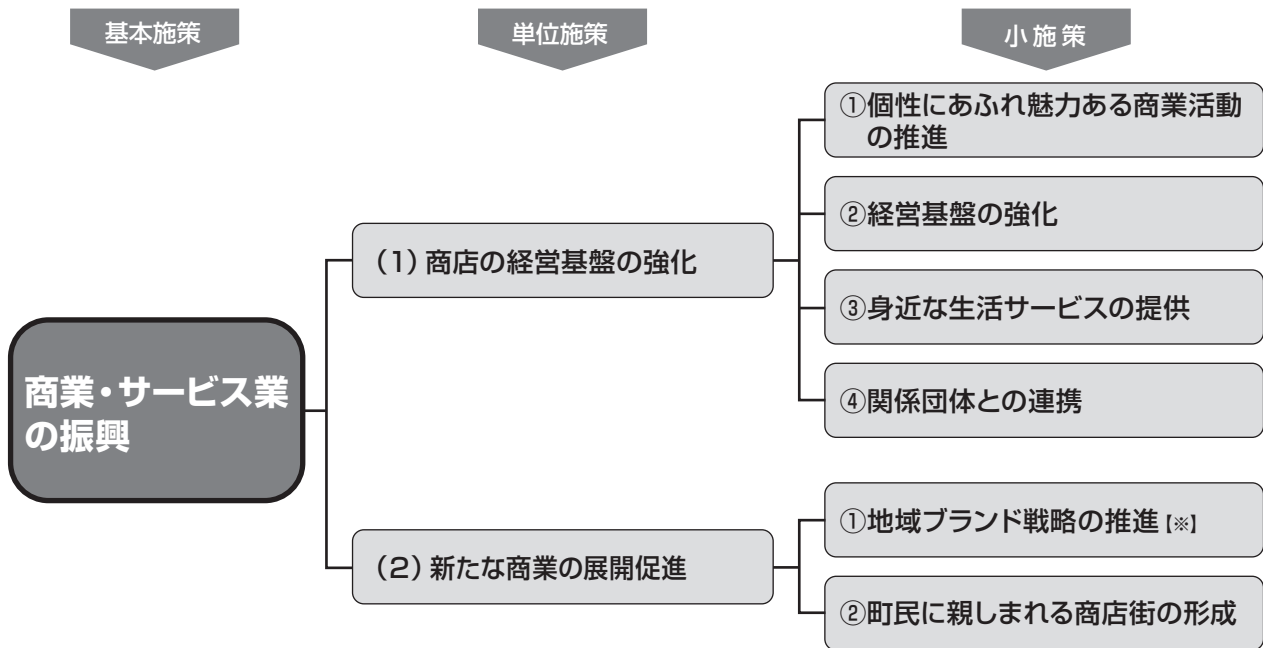
- 個性的で魅力ある商店づくりや経営基盤の強化、後継者の確保が進み、身近な生活支援機能が整っています。
- 農商工・観光の連携や住民活動との連携が進み、商業・サービス業が活性化しています。

目標値 

基本成果指標	現状値	目標値	
	2007(平成19)年度	2015(平成27)年度	2020(平成32)年度
事業所数 【平成19年商業統計より】	385事業所	373事業所	385事業所



## 施策の体系



※：【重点施策】

## 施策内容

### (1) 商店の経営基盤の強化

#### ① 個性にあふれ魅力ある商業活動の推進

商店街と大型店との共存を図り、まちづくりと一体となった活性化に努めるとともに、高齢社会に必要な身近な生活支援機能という住民ニーズに即した商店経営の展開や個性的な魅力ある店舗経営を促します。

#### ② 経営基盤の強化

中小企業の経営支援のため、情報提供や融資制度の活用促進を図ります。

#### ③ 身近な生活サービスの提供

高齢者や子育て期の家族などが、便利に生活することができるように、身近な地域での生活サービス業の振興を図ります。

#### ④ 関係団体との連携

商工会等の育成や組織強化のための支援に努めるとともに、連携を図りながら経営相談や経営指導の推進に努めます。

### (2) 新たな商業の展開促進

#### ① 地域ブランド戦略の推進

商業や地域経済の活性化を図るために、地産地消の推進や観光と結びついた商品開発・販売など、地域ブランド「かにえブランド」戦略を推進します。 ……※重点施策・☆協働の取り組み

#### ② 町民に親しまれる商店街の形成

空き店舗を利活用し、住民活動団体との共同による事業の取り組みにより、町民に親しまれる商店街の形成を図ります。 ……☆協働の取り組み

## 主要事業

事業名	事業概要
空き店舗を利活用した商店街活性化事業	町商工会主体の、空き店舗を利活用した商店街の活性化を支援する。

現状と課題

- 本町は文豪吉川英治が「東海の潮来」と称賛した水郷の里の風情や、川や水との結びつきにより培われてきた歴史文化や産業などが残っています。
- 天然温泉、釣り場、佐屋川創郷公園や由緒ある神社仏閣など、やすらぎやいやしを提供できる観光資源が豊富であり、本町への観光客入込客数は、平成20年現在、年間186,443人です。
- 本町の地域資源を観光資源として活かすためには、観光協会や観光分野の事業者のみならず、農商工業各分野の事業者や商工会、ボランティアや町民が連携し、地域一体で取り組むことが必要です。
- 現在、催事の際には住民ボランティアの協力を得ながら本町の魅力を発信しています。
- 観光振興を推進するためには、さらなるPRの強化、地元の農産物などを使った特産品・土産物開発、集客のためのサービス拠点の整備、水郷のまちや「蟹」のイメージを活かしたかにえブランドを創造することが求められます。
- 海部地域の他市町村と連携し、滞在型の観光をめざすことが課題です。

施策がめざす蟹江町の将来の姿

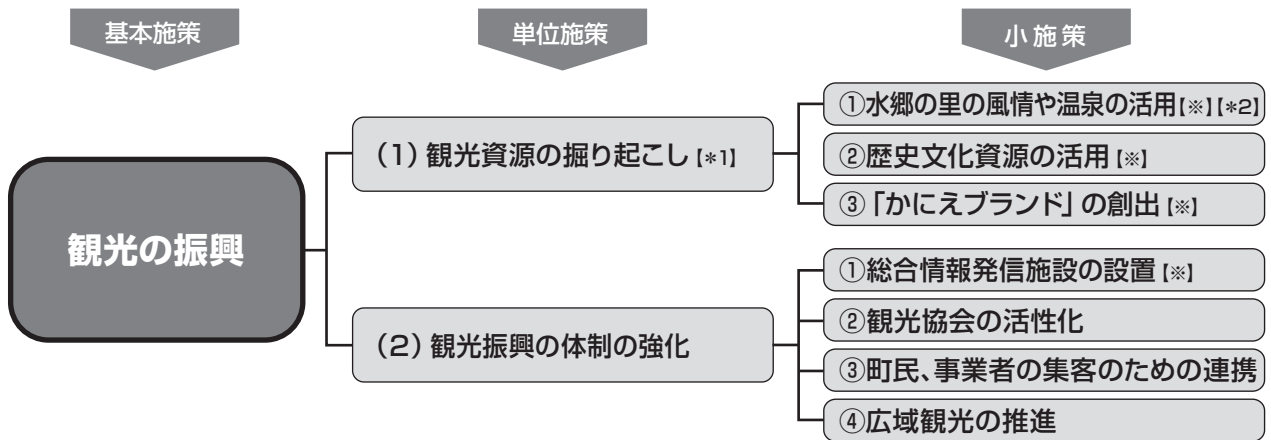
- 水郷の里が再生され、かにえブランドが創造されて、観光客が増加しています。
- 観光関連事業者が農商工や住民活動の輪に加わって活動して、地域経済が活性化しています。
- 観光協会が民間主導により自立運営され、観光事業に独自性が発揮されています。

目標値

基本成果指標	現状値	目標値	
	2007(平成19)年度	2015(平成27)年度	2020(平成32)年度
宿泊者数 【観光レクリエーション利用者統計(H19)】	21,891人	22,000人	23,000人
観光の振興における満足度 【蟹江町住民意識調査(H20.10)】	11.1%	—	16.1%



## 施策の体系



※：【重点施策】

\* 1：【関連施策】 2-2-1 生涯学習の推進 (1) ④「かにえ地域学」の推進<P74>

\* 2：【関連施策】 3-2-1 自然との共生 (1) 水辺環境の保全・創出<P91>

## 施策内容

### (1) 観光資源の掘り起こし

#### ① 水郷の里の風情や温泉の活用

本町を代表する観光資源である水郷や温泉を活かすため、川の浄化・美化や風景の保全などまちづくりの取り組みと観光振興を結びつけ、個性に磨きをかけます。 ……※重点施策

#### ② 歴史文化資源の活用

須成祭などの祭りや醸造業・魚料理、神社仏閣などの歴史的・文化的資源を活かした観光振興を図るとともに、資源の保全を図ります。 ……※重点施策

#### ③ 「かにえブランド」の創出

花きやイチジクなどの農産物や農産物加工品、料理や土産物の開発など、農商工・観光連携により商品ブランドを開発します。

また、観光地として水郷風情を強く打ち出し地域ブランドとしての「かにえブランド」を形成します。 ……※重点施策

### (2) 観光振興の体制の強化

#### ① 総合情報発信施設の設置

現在稼動している「まちなか交流センター」をより機能させていくとともに、ボランティアや福

祉、健康、歴史文化、町民交流、観光等の総合情報発信施設として現在検討中の複合施設仮称「かわの駅」構想を推進します。

また、観光パンフレット、インターネット、新聞、各種情報誌などを活用し、効果的な誘客宣伝に努めます。 ……※重点施策・☆協働の取り組み

#### ② 観光協会の活性化

観光協会を事業者・町民が中心となった組織として自立させ、ボランティアの参画を得ながら、地域に根ざした事業を展開するよう促します。

#### ③ 町民、事業者の集客のための連携

観光協会、ボランティア並びに事業者との広域的な交流を促し、町全体がおもてなしの心を大切にする受入れ体制の整備に努めます。 ……☆協働の取り組み

#### ④ 広域観光の推進

海部地域をエリアとする観光ネットワークを形成し、周辺市町村一体となった、滞在型・周遊型観光を推進します。

## 主要事業

事業名	事業概要
観光振興の推進	町観光事業の振興を促進するとともに、郷土文化の向上を図るため、観光協会と協働で観光に関する事業を実施する。

## 現状と課題

- 豊かで安心な生活を送るためには、町民が安全な商品やサービスの購入をすることができるよう、事業者が法令や社会規範を遵守して商品販売などの事業活動を行うことが重要です。
- 消費生活相談に適切に対応することができるよう、職員研修の充実や有資格者の育成が課題です。
- 経済情勢や世相が不安定であるなか、高齢者の増加、流通手段の複雑化、商品の多様化などに対応するため、消費者の主体的な学習活動の必要性が高まっています。

## 施策がめざす蟹江町の将来の姿

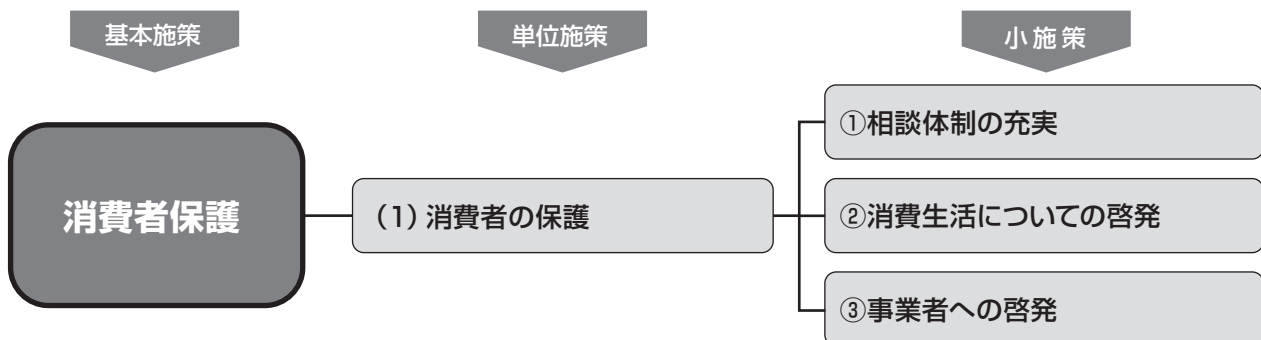
- 町民が安心して商品を購入したり、サービスを利用して、豊かで安定した生活を送っています。
- 町消費生活コーナーが常設され、身近に町民との相談窓口が開設されています。

### 目標値

基本成果指標	現状値	目標値	
	2009(平成21)年度	2015(平成27)年度	2020(平成32)年度
県内の消費生活センターで町民が相談した件数 【愛知県県民生活課調べ】	141件	140件	140件



## 施策の体系



## 施策内容

### (1)消費者の保護

#### ①相談体制の充実

多岐にわたる消費生活相談に対応するため、職員の研修の充実や、相談業務に携わる有資格者の育成を図ります。

また、愛知県内の消費生活センターなど関係機関との連携により、苦情、トラブルに対する相談体制を充実させるとともに、適切な解決に努めます。

#### ②消費生活についての啓発

消費生活相談員を通じて、身の丈に合った消費生活や、正しい商品知識の普及を図ります。また、相談窓口について周知を図ります。

#### ③事業者への啓発

事業者に対して、責任ある商品やサービスの提供、適正な表示および取引方法の実施を行うよう、法令や社会的規範の順守について啓発します。

## 主要事業

事業名	事業概要
消費生活相談 スタートアップ事業	専門的な内容に答えられる相談員を配置した消費生活相談窓口を新設する。
消費生活相談員 養成・レベルアップ事業	相談対応力の向上を図るため、消費生活相談員を各種研修に参加させ、育成する。
消費者教育・啓発活性化事業	自立した消費者の育成、消費者被害の未然防止のため、消費生活講座や消費生活展などを実施する。

【ふるさと振興課】

